

院長のひとりごと2

テーマ「社会人としての家族愛」

新しい春を迎えました。

いやー！清々しい（すがすがしい）です。ひとりごとの更新をさぼって久しいですが、様々な情勢が変わってきました。病院経営も軌道に乗り、医師数も五十二名となりました（開院時十七名）。救急車の数も常に四百五十件を超え、五百件を超したことも何回かあります。隣接する看護学校の講義、実習も担当しており、二年連続国家試験合格率100%です！これも良い伝統になってくれると思います。新臨床研修医も本年度は四名迎え、彼らの教育もきちんとせねばなりません。新研修医も三年目以降は専修医となりますが、こちらも五名を迎え、力強い戦力になってくれるものでしょう。職員数も六八八名となり、二二二床の病院としてはかなり多い数字です。

今春、七四名の新人を迎えるにあたって。当院では三カ月を新人教育期間と定めており、七月以降は新人でなく正職員として接することと決めています。以前より私は「職員はみな家族」と言っています。その職員が患者さんを家族のように大切に看ることと決めています。

では職員同志はどうか？家族愛の元と、厳しい愛の鞭を振ってはなりません。一人の社会人として尊敬の念を以って、一呼吸おいてよく考えて、言葉を発さなければなりません。

「覆水盆に返らず」一度、人間関係に問題が起こると元に戻すのに何年もかかることがあります。だから最初によく考えてからしゃべることです。これが大人の対応です。つまり良き社会人になるということですから。これを「社会人としての家族愛」と呼びたいと思います。

新臨床研修医四名は、実は十日前から事前研修を始めております。とは言っても医師としての研修ではなく、社会人としての勉強です。実際は飲み会ばかりですが。しかしこれも大事な社会勉強です。同時に新研修医同級生四名はこれから一生のライバルであるが掛け替えのない友となるのです。彼らはすでにお互いそのような関係になっているものと思います。四月に入り、他部署でもいろいろな交流会、勉強会、飲み会、などから人生の糧となるたくさんの方に出会えることを期待します。ただし、それを開いてくれている諸先輩に感謝の気持ちを決して忘れずに。

平成二四年四月三日 藤井茂

第1章。

